

包装への取り組み

包装から物流までの流れを総合的に見直すことで、
包装材使用量の削減や再生資源の利用といった環境負荷低減に努めています。

包装材への取り組み

包装の構造・形態および製品の強さを見直すことで、中装箱の廃止や個装箱・外装箱の小型・軽量化による包装材使用量と廃棄量の削減を進めています。

また、再生紙や再生樹脂といった資源のリサイクル化を積極的に進めています。

包装材総使用量の削減: 1%削減

2003年度までに包装材の総使用量を(2000年度比)20%削減する目標に対して、1%削減にとどまりました。これは生産数量が21.6%(2000年度比)増加したためですが、売上高原単位では16%削減しました。

(1) 発泡スチロール使用量削減: 18.2%削減

2003年度までに紙系素材への切り替えを行うことで、発泡スチロールの使用量を(2000年度比)30%削減する目標に対して18.2%削減となりました。これを売上高原単位で表すと30.7%削減となります。

(2) ダンボール使用量の削減: 1%増

樹脂系包装材からダンボール素材への切り替えを行うことで、ダンボールの使用量を(2000年度比)20%削減する目標に対して1%の増加となりました。これを売上高原単位で表すと14.3%削減となります。

特に、デバイス製品の包装では、輸送手段の見直しを行った結果、今まで二重包装であった外装箱とコーナパットを廃止しました。

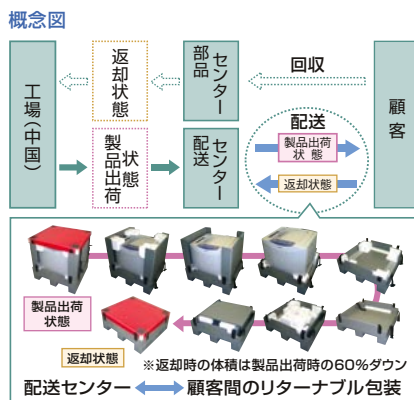


■従来のデバイス製品包装

リターナブル包装の採用

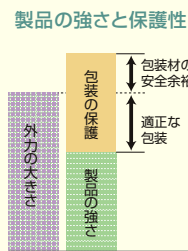
包装材は最終的には廃棄物となるため何度でも繰り返し使用できる包装材のリターナブル化が効果的です。リターナブル包装(通い箱包装)の採用を大型製品を対象に取り組んでいます。

具体的には、業務用プリンタにおける販売デモ用製品包装から開始しました。このリターナブル包装は、配送センターと顧客との間を繰り返し使用するもので、現在、東京、名古屋、大阪の3拠点で展開しています。



今後の取り組み

「適正な包装(包装の保護)」を追求するためには、「外力の大きさ」と「製品の強さ」を正確に把握することが重要です。包装が物流過程で遭遇する「外力の大きさ」は、荷扱い中の落下による衝撃と輸送機関の荷台の振動、および保管中の積み付け荷重があります。これらの「外力の大きさ」に耐えうる「製品の強さ」を把握することで、「適正な包装」を行い、包装材の使用量削減と容積縮小による環境負荷低減に努めていきます。これにより、新たな目標設定を「2007年度売上高原単位にて(2000年度比)30%削減」として推進します。



【具体的には】

- 外力の大きさを把握するためには
 - ・輸送、保管、荷扱い環境の再調査
 - ・物流上における包装品質基準の再設定
 - ・SCM(サプライチェーンマネジメント)に応じた包装合理化の追求
- 製品の強さを把握するためには
 - ・製品強度を数値的に把握する
 - ・製品設計ヘフィードバック(強度向上)
 - ・製品課試験方法、規定、基準、評価の再設定

包装材別使用量の推移内訳

